

令和元年度
日野市郷土資料館の
運営の状況に関する評価書
(平成 30 年度事業)

令和元年 9 月
日野市郷土資料館

目次

1	はじめに	1
2	評価の目的	1
3	郷土資料館の現状	1
	（1）組織と職員	
	（2）主な業務	
4	評価の実施方法	1
5	評価の対象	2
6	評価の結果	2
	事業別 郷土資料館の運営状況の評価表	4～17

参考資料

I	平成30年度 日野市郷土資料館の活動状況	18～29
II	日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱	30
III	第7期日野市郷土資料館協議会委員名簿	31

1 はじめに

平成 15 年以降、「博物館の設置及び運営に関する基準」に基づき、郷土資料館は事業の水準の向上を図り、郷土資料館の目的を達成するため、自ら評価を行い郷土資料館協議会の御意見をいただき、その結果を公表するように努めてきております。

さらに、平成 20 年の「博物館法」の改正により、郷土資料館の運営状況に関する評価として、「博物館は、運営の状況に関する評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない」とされています。

これらを受け、郷土資料館では、平成 21 年 3 月、「日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱」を制定し、郷土資料館の運営状況に関する評価を実施しております。

2 評価の目的

この評価は、郷土資料館の運営状況に関する情報を、積極的に公表することにより、郷土資料館の利用者や関係者との相互の理解を深めるとともに、連携・協力を図り、郷土資料館の事業を推進することを目的とするものです。

3 郷土資料館の現状

(1) 組織と職員

組織：1 係〔資料館係〕

職員：5 人〔館長 1、主査 1（学芸員）、主任 1（学芸員）、用務主事 1、再任用 1〕

嘱託職員：4 人〔学芸員 3〕

(2) 主な業務

平成 17 年 4 月 1 日、ふるさと博物館から新たに生まれた日野市郷土資料館は、次の目的を達成することを目指して活動をしています。

- ① 歴史、民俗、自然等の資料の収集、保管及び展示に関する業務
- ② 資料の調査研究に関する業務
- ③ 資料の普及広報活動に関する業務
- ④ 学校教育や市民による自主的学習活動への支援の連携業務

4 評価の実施方法

郷土資料館では「日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱」に基づき、毎年 1 回、郷土資料館協議会へ運営状況についての自己評価を提出し、協議会の評価を併せて評価書としてまとめ、教

育委員会へ報告いたします。その後、市民の皆様へ公表することとしています。

さらに、その評価の結果に基づき、今後の郷土資料館の運営の改善を図るために必要な措置を講ずるよう努めていきます。

5 評価の対象

平成30年度の評価対象は、次の11事業について行うこととしました。

- No.1 郷土資料館協議会の開催
- No.2 学校教育との連携事業
- No.3 企画展開催事業
- No.4 特別展「日野の自然～鳥とともに～」の開催事業
- No.5 文化財緊急調査事業
- No.6 古文書等歴史資料の調査・整理事業およびマイクロフィルムデジタルデータ化事業
- No.7 真慈悲寺調査事業
- No.8 「勝五郎生まれ変わり物語」の調査と発信事業
- No.9 七生丘陵の自然と歴史調査事業
- No.10 たきびの詩人「巽聖歌」啓発事業
- No.11 資料館講座・体験学習事業

6 評価の結果

令和元年度「日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価」の総括としては次の通りです。

No.1「郷土資料館協議会の開催」については、郷土資料館は日野市に必要な施設とされつつも、来館への工夫を求められています。また、協議会委員については、バランスのとれた委員構成で有益である旨評価を頂いています。

No.2「学校教育との連携事業」は、協議会委員もとても意義があり関心も大きい事業です。「体験」を切り口に評価、提案等を頂いております。学校現場への更なるアプローチとしての取り組みも求められています。

No.3「企画展開催事業」は、「ひの宝モノ語り展」での、くつろげる空間を取り入れた展示への好評をいただきました。更なる工夫をしていきたいと思えます。

No.4 特別展「日野の自然～鳥とともに～」の開催事業は、日野の自然だけでなく、それに伴う文化をあわせたところを評価していただきました。一方向からの展示だけにとどまらず、また展示を見た後まで考慮できるものを考えていきたいと思えます。

No.5「文化財緊急調査事業」は、文化財への緊急対応については評価されました。しかし、米蔵等、具体的なものがなくなってしまうことへの対応を求める声もありました。

No.6「古文書等歴史資料の調査・整理事業およびマイクロフィルムデジタルデータ化事業」は、日野市の歴史的財産である古文書の流出をいかに防ぐか、また、行政文書の保存についても指摘がありました。

No.7「真慈悲寺調査事業」は、真慈悲寺の歴史的な価値、その調査については一定評価を頂いていますが、ICTを活用した新しい動きも求められています。

No.8「勝五郎生まれ変わり物語」の調査と発信事業」は、八王子に地域の見どころを伝える案内板ができたことへの評価がありました。また、講演録の作成への期待の声がありました。

No.9「七生丘陵の自然と歴史調査事業」は、素敵なハイキングコースのPRを、といった声があり、健康課や地域協働課等との連携を考えていく必要があると感じました。

No.10「たきびの詩人『巽聖歌』啓発事業」は、巽聖歌資料室への期待の声がありました。資料室を拠点に啓発に取り組んでいきたいと思えます。

No.11「資料館講座・体験学習事業」は、「日野煉瓦造の山下堀アーチコルベルトに潜る」が好評をいただきました。緑と清流課と郷土資料館が協力し、なし得た事業です。今後とも郷土資料館の知識を市民や地域、関係他課との連携・協力関係が大切であると考えます。

郷土資料館事業に対する協議会委員の評価は概ね好評でしたが、事業の取り組み及びその成果の周知に関する課題が挙げられていました。関係他課との連携や、周知に関する新しいアプローチを模索していきたいと思えます。また、学校教育との連携については協議会委員も高い関心を示しています。令和元年度、郷土資料館に校務支援システムを導入いたしました。これを活用し学校との連携・連絡を強化し、郷土資料館の持つ資料や知識を学校での学びに生かしていきたいと思えます。

評価対象となった各事業の自己評価及び郷土資料館協議会からいただいた評価及び意見は、4ページ以降の評価表のとおりです。

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目

No.1 郷土資料館協議会の開催

事業の概要

・日野市郷土資料館協議会は、博物館法および日野市郷土資料館条例により位置づけられている。郷土資料館の運営に関して、館長の諮問に応じ、館長に対して意見を述べる機関。学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、並びに学識経験者、公募市民の10人で構成されており、年3回の会議を開催して意見を求めた。

・資料館は、毎年資料館協議会の意見をもとに、事業評価を行っている。

事業の成果

・協議会で定めた資料寄贈寄託などの手順をもとに、資料受入等の手続きを実施し、状況報告を行いながら事例を積み立てた。

・当館の運営状況の評価について意見を求め、結果は教育委員会に提出した後、市民に公表した。

・委員の専門性や人脈を生かし、講座・体験学習会の開催や調査事業などに際して情報提供、助言や協力をいただいた。

・それぞれの経験からの意見を、展示・講座などの事業や業務改善に生かすことができた。

・委員を通して、関連施設、学校現場などの実例や市民の声を聞くことができた。

協議会の意見

・協議会委員になるまで知ることのなかった資料館活動を知ることができて、郷土資料館は日野市に必要な施設であり、魅力的な展示もある。どうしたらより多くの人に来てもらえるのか考えていきたい。

・協議会委員は、学校教育及び社会教育、家庭教育、学識経験者、公募市民などで構成されている。これは、郷土資料館の運営に関して多面的に評価をするだけでなく、郷土資料館をめぐる委員間の意見交換や交流に関しても有益である。

・今後、中・長期的な郷土資料館のあり方についても検討していきたい。

課題と改善策

・令和2年3月で第7期の任期が終了するため、第8期の委員体制を整える必要がある。

・寄贈寄託などの手続きや収蔵場所不足の問題は、資料館の重要課題であり、問題点・課題点は精査して協議会へ報告する。

・会議だけでなく、委員との情報交換など郷土資料館とのつながりを生かしていきたい。

・資料館の興味深い活動をわかるように発信していきたい。市内の小中学校と共通のシステムを導入し、掲示板やメールなどで発信してつながりをもつ。

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No. 2 学校教育との連携事業
事業の概要 <ul style="list-style-type: none">・市内の文化財を活用し、小中学生と幼稚園、保育園及び教師を対象とした文化財の啓発事業を展開する。・社会科見学や出前授業、見学会、職場体験などは、小中学校及び幼稚園・保育園の要望を取り入れた内容で行う。・授業で使う資料の相談を受けて資料を提供し、見学地や人材紹介などを行う。・当館で蓄積した画像データ資料などを、学校に提供して ICT 教育の教材として活用をはかる。・教育センター発行『歩こう、調べよう、ふるさと七生』の執筆や資料提供など協力を行った。	
事業の成果 <p><小学校の学習利用></p> <ul style="list-style-type: none">・2年国語「たぬきの糸車」糸車の貸出(3校)、3年社会科見学(9校)、社会「昔の道具と暮らし」出張(9校)、社会「大昔の暮らし(火起こし体験・土器)」出張(1校)、5年総合「稲の脱穀体験」(1校)、6年社会「大昔の暮らしと火起こし体験」(1校)、郷土の人物及び災害についての話(2校)、どんぐり拾い(1校)といった多様な利用がみられた。・「昔の道具と暮らし」出張授業は湿度が低い日が多く、タライなどの木製品を湿らせたりタガが外れて修理したりする様子を伝える事ができた。 <p><中学校、幼稚園・保育園などの学習利用></p> <ul style="list-style-type: none">・職場体験(4校)、地域学習(5校)、特別支援学校(2校)、特別支援学級(1校)。平成30年度はわかば教室の利用(4回)のうち、初めて資料を用いた洗濯体験を行った。ほか市外の中学校より2校の学習利用があった。また、桜美林大学に資料の貸出を行ったり、民俗収蔵展示室を授業に利用した。・八王子東特別支援学校の利用では、石田散菓をテーマにした出張・来館授業で五感を刺激する体験を行った。職員皆で力を合わせた対応により、様々なニーズに応じていくことの難しさと、達成感を学ぶことができ、喜んでもらった。	

協議会の意見

<体験を伴う学習の実施にあたって>

- ・学校との連携はよくやっており評価できる。学校への出前授業はありがたい。遠いと来館しづらいし時間もかかる。
- ・府中市郷土の森博物館では、敷地内に田んぼを耕し、学芸員が手取り足取りついていないといけない。千葉県立「房総のむら」でも農業やうどんを体験できる。米を作ったり、蚕を飼い、繭から糸をとる・真綿やカイコの糸でうちわをつくるなど、道具の使い方を伝え、飼育観察と体験が可能で、子供にはおもしろい。
- ・体験学習には手がかかるが、学ぶことが多く限られた条件の中でできるだけ工夫する。
- ・新選組のふるさと歴史館とは石田散葉も連携している、新選組の話題も連携を密にしては。
- ・大切な資料を守るため、複製品を用いた体験授業セットを構築してはどうか。
- ・若い教諭は、七輪での火の起こし方や・雑巾絞りといった体験や昔道具についての経験が不足しており、研修が必要。
- ・教諭の虫を触る体験が不足しているため、都の教育委員会が多摩動物公園での教諭対象の昆虫研修を組み入れた。ほかの施設との連携の中でいろいろなことができる。
- ・体験学習の重視、博学連携が叫ばれる今、新規採用教員研修に博物館・図書館との連携・活用を1コマ入れたい。
- ・日野の水車活用プロジェクトは、潤徳小学校の田んぼの授業と関わりをもち、お米が口に入るまでの過程を紹介しており、参考になるのではないかと。市民グループとの交流や情報交換があるとよい。
- ・現在は、水道水の経路を知らないまま使えるが、昔の人たちが水を得るのは大変だった。各時代の先人たちの積み重ねの上に今の仕組みがあり、知らずに便利に使っている。昔の道具にどのような意味があるのかを知り、稲作・脱穀・米を口にするまで昔は手数をかけてやったことを、体験を通して学び、自分たちの今の生活に結びつけて、考えていければよい。

<学校現場に組み込むために>

- ・「TOYODA BEER」の麦踏み当初子供に体験する機会をつくったが、麦踏みだけの単発行事だと、どうなることが見えなくて散々だった。種を撒いてからごはん一杯が口に入るまで、単発の体験では実感するのが難しいのでシリーズ化すれば学習につながる。社会人向けの体験だとビールになる話が理解しやすい。
- ・学校現場では、前年度に教育課程を教育委員会に提出し、吟味の後に指導がはいり、教育委員会が受理した後新年度の教育課程が決まるため、前年度から組み込んでおくとういが、系統だてた学習を急には取り入れにくい。前年度から地域や資料館の提案を組み込んでいくと子供たちの学びが深まるのではないかと。
- ・「わたしたちの日野」の改訂に際して、郷土資料館が昔の道具の勉強を方向づければこちらも考えが固まってくる。また、新指導要領でどのように位置づけられるのか、資料館からの提案も聞きたい。
- ・体験ありきではなく、何を学ばせたいのか、学習の「ねらい」を明確にして、学校と十分な打ち合わせが必要である。

課題と改善策

- ・出張授業開始直後に梱包資材を提示しながら「資料の大切さ」を伝えたところ、一定の効果がみられた。資料の消耗への対応のため、引き続き体験授業セットの構築に努める。
- ・ICT教育、学習指導要領の改定や社会情勢の変化なども踏まえた対応が必要である。
- ・中学校の地域学習は、学校により多様な学習のため、一層綿密な打ち合わせの上で行う必要がある。
- ・収蔵資料の活用をすすめていきたい。教員に指導する立場である教育センターの研究所員と連携して、提案を発信するなど、様々な手段で発信をしていきたい。
- ・かつて当館事業として実施していた農作業体験では、一年サイクルで実施していたが、苦労があった。現在は公民館に引き継いで実施。
- ・体験地域のコーディネーターの力があるとよい。

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No. 3 企画展開催事業
事業の概要 〈郷土資料館企画展示室〉 <ul style="list-style-type: none">・『赤い鳥』100年記念 たきびの詩人巽聖歌と『赤い鳥』 会期 4月21日～7月1日・「どっき土器展～日野駅西側の低地に広がる遺跡から～」 会期 7月7日～9月30日・「ひの宝モノ語り展～くらしの道具に光をあてる～」 会期 12月15日～平成31年4月14日 企画展関連講座 「くらしの道具に光をあてる 北多摩×南多摩」 「みんなで遊ぼう！たこ揚げ・竹とんぼ・紙飛行機」 〈パネル展〉 <ul style="list-style-type: none">・春季「百草の歴史を楽しむ～中世の大寺院真慈悲寺と明治時代の百草園まで～」・夏季「平和の尊さを語り継ぐ」・秋季「ガラス乾板からよみがえる 100年前の豊田の風景」・冬季「どんど焼き」	
事業の成果 <ul style="list-style-type: none">・郷土資料館企画展など、館内展示で合計1,761人の観覧者があった。・『赤い鳥』創刊100年に併せて開催した「たきびの詩人巽聖歌と『赤い鳥』」では、聖歌が童謡詩人としてのスタートとなった『赤い鳥』への投稿作品「水口」や、その後の活動について紹介した。・「ひの宝モノ語り展」では、展示資料や解説を工夫することにより、子どもから大人まで楽しみながら地域の宝モノとしての認識を浸透させることができた。郷土資料館の活動の視点の展示にも注目が集まった。・資料調査の成果をもとに構成したパネル展「ガラス乾板からよみがえる 100年前の豊田の風景」は好評を博し、豊田にある中央図書館や、豊田小学校でも、学校公開の時期に合わせて展示した。 〈企画展関連講座〉 <ul style="list-style-type: none">・多摩地域の地図を元に比較及び検討を行ったため、位置関係が分かりやすかったという意見があった。・各地域における資料や環境の話、展示解説、題を決めて比較検討という構成で、メリハリのある講座だった。・若手の研究者を講師としたことで、新鮮な講座となった。・工夫された紙飛行機、竹とんぼ、たこ揚げの順で全員が一斉に作り終え、達成感を共有する事となった。3歳から祖父世代まで幅広い年齢層の中で行ったため、低年齢の子どもを含む親も安心して兄弟で参加することができた。	

協議会の意見

- ・人気のカフェには人が並ぶように、資料館にもくつろげる空間がよいのではないか。正月行事や子どもが興味をもつ工作や体験やコマやけん玉、お手玉などできるスペースがあるとよいのでは。生活科やひのっちでも昔の遊びを実施している、力を貸してくれる人が必要。遊びにも呼び名にも方言がある。昔の道具がどんな場所にあるのか見られる展示室があるとよい。「ひの宝モノ語り」展では、休む場所があつてよかったという声もあつた。
- ・調布市の例では、建物の古さで来館者が伸びないこともある、駅前の展示会場を借用した場合は人が来るが、気を使う。立地・駅前など会場の制約もあり展示する大変さがある。立地の悪さという宿命を何かのやり方で挽回していければよいのでは。
- ・1日あたりの人数で考えると来館者が少ない。もうちょっと気楽に見学してもらいたい。来館者は増やせるものなのか。立地の考慮も必要だが、日野の場合、出前や学校との連携は進んでいる。
- ・単純に来館者数を増せばよいというものではないが、せつかくの展示がもったいない。勝五郎のゆかりの場所や七生丘陵の散策コースも近いこの場所にあることを生かしてはどうか。資料館を訪れるだけでなく、関係するところもあわせて、展示と周辺地域をつなげて、ウォーキングコースを紹介してはどうか、ゾウの化石と多摩動物公園といったテーマもある。
- ・周辺地域の歴史・自然等を組み入れた展示・講座を工夫したい。高幡台団地内にステキなカフェやレストランができれば最高ですが。
- ・それぞれの地域の資料館は工夫をしており、瑞穂町郷土資料館は、会議室貸出も行き夜間開館といった場所もある。

課題と改善策

- ・資料整理や調査成果をもとに、日野市の自然・民俗・歴史にかかわるテーマで企画展を開催する。また、企画展の開催とともに、収蔵展示室の整備も行っていく。
- ・観覧者の目線に立ったわかりやすい展示、資料の提示方法を考える。
- ・企画展関連講座は二つであったが、一つの枠で広報にて宣伝した点、宣伝開始が早すぎた点などを見直す。宣伝方法を再考し、より多くの人目に留まるようにしたい。
- ・みんなで遊ぼう！の講座は3歳の子どものため制作物は二つに絞り、遊ぶ時間を増やす。

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目

No. 4 特別展「日野の自然～鳥とともに～」の開催事業

事業の概要

- ・鳥をテーマに人と自然とのかかわりを考え、展示や講演会などの関連事業を開催し、生き物や自然環境の大切さを市民に伝えた。
- ・日野で見られる鳥、鶺鴒や鷹狩など鳥と関わってきた日野の歴史、市内の動物園や環境省の施設による鳥をまもり育てるための取り組み、鳥の足跡化石などを紹介し、自然の大切さや面白さを伝えた。
- ・郷土資料館、平山季重ふれあい館、カワセミハウスの市内3会場でパネル展を巡回し、鳥の観察にも役立つ構成のリーフレットを発行・配布した。
- ・講演会、バードウォッチング、多摩動物公園の見学会などを開催し、日野にすまう鳥の生き様や、野鳥保護に関わる取組について、参加者は専門家の話を聞くことで、より深く実感をもって知ることができた。
- ・平山季重ふれあい館での展示にあわせて、平山図書館では、鳥関連の書籍を展示した。

事業の成果

- ・展示会には、市内3会場で合計5,879人の見学があり、より多くの市民に展示見学の機会を提供できた。
- 4つの講座で合計78人が参加した。
- ・講演会「日野にすまう鳥たち」20人
- ・親子向け体験プログラム「動物園でとりをふやす、まもる」14人
- ・講演会「東京の野鳥は今 どう変わった・なぜ変わった！」26人
- ・自然観察会「浅川バードウォッチング」実施 18人

協議会の意見

- ・自然だけでなく、鶺鴒のように文化もあわせたのが資料館ならではの企画。歴史好きの人も見てもらえる。
- ・開催期間を長くすることには意味がある。
- ・1回の展示で図録作成が通常の例だが、展示を継続して積み重ねて記録をまとめてはどうか。
- ・身近なところで見学できた、ついでに立ち寄れた、展示の量が沢山ではないので見やすかった、など気楽に見られる展示となった。日野の自然に気づいてもらえた。
- ・展示を見た後、周辺地域で観察できるよう、モデルコースを設定し紹介する。

課題と改善策

- ・施設的环境から、展示できる資料が限定されてしまう。入手の機会が限定される鳥類標本は、他館からの借用は控えた。
- ・図書館やカワセミハウスでの展示では、他の目的で訪れて展示を目にする機会となる。
- ・期間や約半年と長期間に実施したが、それぞれの会場が小規模であり、特別な展示となるようにできなかった。
- ・興味がない方にも見ってもらうために、見せるためのアイデアが必要。
- ・講座は、定員未満だったため、より多くの人に参加できるように広報手段を考える必要あり。

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No.5 文化財緊急調査事業
事業の概要 <ul style="list-style-type: none">・代替わりや区画整理等の理由で処分する建築物及び蔵等に収蔵されているものについて、地域を語る有形の資料や無形の情報の収集、記録及び保存を行う。・市内の建築関係等の専門家との連携で、専門性を持った調査活動を行う。	
事業の成果 <ul style="list-style-type: none">・今年度は、区画整理に伴う川辺堀之内地域の記録撮影調査及び、JA 東京みなみ日野経済支店大谷石蔵の調査を行った。「米処」日野を物語る大谷石製の倉庫の現況を記録撮影・図面作成し、古写真と聞き書きを合わせて、往時の大谷石倉庫の規模を知ることができた。また倉庫にかかわる関連資料を収集することができた。・借用資料の記録保存撮影をすることができた。・当館職員ならびに専門カメラマンによる写真撮影、建築関係の専門家による図面取りを行うことができた。	
協議会の意見 <ul style="list-style-type: none">・予算があって緊急調査で記録が残せるのはありがたい。・米蔵がなくなる、長屋門がなくなるといったように、具体的なものがなくなってしまうので、保存や活用する方法はないものか。・今後、未来の市民の為に記録保存だけでなく、具体的でよくわかる実物の保存・活用のあり方についても検討したい。・市内外の文化財に関する情報を得たとき、当事業はそれに対応するものとして、高く評価することができる。今後とも継続して当事業を遂行してほしい。	
課題と改善策 <ul style="list-style-type: none">・緊急性が高いため、予算化されにくい無形・有形の文化財を記録保存するための事業として非常に有効。・常にアンテナを張り、情報収集に努め、速やかな行動を行う必要がある。・収集後の速やかな記録及び保存を心がけ、資料の散逸を防ぎながら、収蔵する必要がある。	

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No. 6 古文書等歴史資料の調査・整理事業 およびマイクロフィルムデジタルデータ化事業
事業の概要 ＜古文書等歴史資料の調査・整理事業＞ <ul style="list-style-type: none">・市内の古文書の整理、目録作成、補修、撮影を行ない、保存のための手段を講じる。・古文書を解読して、展示などに利用するほか、印刷物として刊行し、広く市民の利用に供する。・古文書を利用した講座や見学会を開講し、古文書に対する市民の理解を深め、古文書を読み解く楽しみを広める。・古文書等歴史資料整理編集委員会を年3回開催し、委員の意見を参考にして上記の事業を行う。 ＜マイクロフィルムデジタルデータ化事業＞ <ul style="list-style-type: none">・昭和46年から平成10年までに古文書等歴史資料を撮影し、郷土資料館が保管するマイクロフィルムは、35mmフィルムが358巻と、16mmフィルムが64巻ある（16mmフィルムは35mmフィルムの倍のコマ数がある）。現在は、マイクロフィルム専用読み取り機やその付属品は生産中止になっており、フィルムのままでは利用が困難であることと、年々フィルムの劣化が懸念されることから、デジタルデータへの変換が急務とされている。それらのマイクロフィルムと目録をデジタルデータ化することで、パソコンを使って画像を検索利用できるようにするものである。	
事業の成果 ＜古文書等歴史資料の調査・整理事業＞ <ul style="list-style-type: none">・豊田旧名主Y家の資料の撮影および解読を委託にて実施した。撮影は、絵図・地図などの大型資料159点について実施した。また、平成29年度に撮影した麦酒・建築関係の帳簿類などのうち、24点の解読を日野の古文書を読む会研究部会に委託した。これらはいずれも令和元年度の特別展のために活用する。このほか、平成27年度にデジタルデータ化したガラス乾板写真から20枚のA2判写真パネルを製作し、パネル展示を市内3か所で開催、会期中には講座やギャラリートークも実施した。・川辺堀之内M家文書の追加資料の整理を行ない、マイクロフィルム未撮影および追加資料の中から128点の撮影を実施した。・日野の古文書を読む会研究部会による古文書の解読を42回行い、ボランティア延べ464人の参加があった。また、史料集刊行のための編集会議を15回行い、ボランティア延べ47人の参加があった。また、借用中の豊田Y家および下田O家の資料整理を19回実施し、同会のボランティア延べ96人が参加した。・東光寺のT家文書の追加整理を行い、目録作成と撮影をした。・『日野市域の八王子千人同心関係史料集』を市内印刷で500部刊行し、希望者に無償配布した。これを機に、歴史講座「古文書から学ぶ日野市域の八王子千人同心」を全3回で開催し、延べ78人の参加者があった。・平成29年度に続き、虫損の被害が甚大な貴重資料「平山村改正反別帳」の裏打ち修復を委託にて50丁分実施し、前年度と合わせて90丁分の裏打ちを終えた。残り69丁は次年度以降に実施する予定である。・古文書等歴史資料整理編集委員会を7・10・3月の3回開催した。 ＜マイクロフィルムデジタルデータ化事業＞ <ul style="list-style-type: none">・今年度は、日野市所蔵文書（日野町会・七生村会議事録）など35mmフィルム28巻と16mmフィルム5巻（約23,000コマ相当）をデジタルデータ化し、あわせて電子検索性目録を作成した。平成19年度の事業開始から12年目にして、35mmフィルム358巻のデータ化が完了した。残るは16mmフィルム59巻である。・データ化された資料は、展示のための資料選択や講座の教材として使用したほか、市民や他の博物館からの問合せへの回答等に利用された。郷土資料館が事業を行うにあたって、デジタルデータの保存と活用は不可欠である。・現行のOS（Windows7）から新しいOS（Windows10）に移行するにあたり、新たな文書検索システムの構築について検討を始めた。	

協議会の意見

- ・代替わりの機会に、所蔵家の人でも蔵の中にあるものがわからないこともある。
- ・古文書が古書店ルートで市外にでてしまうことがある。所蔵家に積極的にアピールしてはどうか。
- ・個人では古文書が読めないと大切さがわからない。郷土資料館は古文書を読むことができるので、所蔵者が古文書に興味をもてるように、古文書を読んであげるとか、所蔵者が古文書を学び読めるようにするなど、援助をしてはどうか。
- ・「お宝鑑定団」のような、古文書を読むデモンストレーション的な企画で郷土資料館では古文書が読めることをアピールしてはどうか。
- ・かつての市史編さん事業で、古文書の調査を行い、主要なものはマイクロフィルム化した。家も代替わりしており、所蔵家に新たに古文書の大切さを伝える必要がある。個人の所有物であるが、地域にとっても大切なもので公共的な財産である。
- ・現在行政文書も失われつつある、私家文書と町役場・村役場の行政文書両方の保存が大切。
- ・新たな市史編さんが、多摩地域の各自治体で進んでいる（小平市、八王子市、狛江市、立川市、府中市、羽村市、清瀬市など）。当事業は、日野市が将来市史編さんを企画立案するにあたって、基礎となるものである。
- ・古文書保管のための、きちんとした収蔵施設が必要である。

課題と改善策

<古文書等歴史資料の調査・整理事業>

- ・資料を預かっても整理が進まない。
- ・今後も、他部署や市民と連携をとりながら、区画整理や住宅の建て替えなどで散逸が心配される古文書を緊急に保護できるようにする。資料保存の大切さを訴えるとともに、古文書の調査や整理は、経験のある人材や資料の保管場所を必要とするものであることを、多くの市民に理解してもらえらるような活動をしていく。
- ・文化財緊急調査のための予算があることで、専門家への依頼の道が開けるなど、博物館活動の幅が広がったので、今後も拡充させていきたい。
- ・今後も継続して、解読した古文書を順次、史料集として刊行していく。

<マイクロフィルムデジタルデータ化事業>

- ・年々少しずつ予算を増額しているが、今後もフィルムの状態が少しでも良い内にデジタルデータ化を完了できるように努める。
- ・新しい OS に合わせた文書検索システムを構築し、これまでのデータを移行させるための検討中である。
- ・新システムへの移行時には、これまでに見つかったデータの不備や不具合についても改善する必要がある。

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No. 7 真慈悲寺調査事業
事業の概要	<p>・市民ボランティアとともに、真慈悲寺および百草・倉沢地区の調査・研究、普及、関連施設の整備等を実施している。</p> <p>・普及活動として、①京王百草園まつりでパネル展「中世の大寺院真慈悲寺と百草園を開いた青木角蔵」と解説ガイド9日間、②第13回真慈悲寺現地イベントで特別講演「真慈悲寺を支えた人々の遺跡―落川・一の宮遺跡」、「百草・倉沢地区歴史野外パネル展」、国指定重要文化財「銅造 阿弥陀如来坐像」の一般公開、現地案内解説ガイド、③京王百草園梅まつりでパネル展「中世の大寺院真慈悲寺と慈岳山松連寺第8代住職魯庵如道」と解説ガイド13日間、④真慈悲寺調査センターへの訪問者への解説ガイド2回を実施した。また、実踏調査・研究活動、真慈悲寺調査センターや関連施設の保守整備に45回ボランティアが参加。</p> <p>・『歩こう、調べよう、ふるさと七生』の真慈悲寺の項目を執筆。</p> <p>・リーフレット「百草周辺歴史散策ガイド」を2,000部増刷し配布している。</p>
事業の成果	<p>・普及活動として大きなイベントを3回組むことができた。市内・市外の不特定多数の人に向けて真慈悲寺を紹介し、歴史に興味がある、なしに関わらず、日野に真慈悲寺ありとアピールするよい機会となった。通年でボランティア・一般参加者合わせて1,790人が何らかの形で真慈悲寺事業に関わりをもつことができた。</p>
協議会の意見	<p>・歴史や仏教史研究者の間での評価はどうか、真慈悲寺がもっと注目を集めてもよいのではないか。</p> <p>・『歩こう、調べよう、ふるさと七生』の冊子で真慈悲寺の紹介があり小中学校にも周知したいところだが、郷土教育推進研究委員会では、研究授業希望の手が挙がらない、本に記述されている真慈悲寺や高幡不動などの歴史の重さを、活用する側の理解が不足しており、さらに伝える必要がある。</p> <p>・郷土教育推進研究委員会との連携を深め、小中学校での教材化を検討する。</p> <p>・造形大学の学生が、八王子市の中心部でスマホに昔の八王子の風景を再現するイベントがあった。八王子の滝山城址はスマホをかざして当時の様子を見ることができる。</p>
課題と改善策	<p>・真慈悲寺は高幡不動尊、平山季重とともに日野市における古代から中世にかけての重要な文化財である。中でも特に真慈悲寺は近年の文書研究によりその歴史は11世紀末にまでさかのぼっており、今後さらに継続的な発掘調査や研究活動で多くのことが補完される可能性が高い事業である。</p> <p>・寺域内では土地所有者の世代交代が続いており、開発の波が押し寄せている。今後土地利用の変化にとまらぬ、よりいっそうのこまめな実踏や聞き取り、資料の採集活動、発掘調査を実施して関連遺構の発見に努めることが重要になってきている。</p> <p>・本事業は14年目に入り、ボランティアの高齢化も進んでいる。実踏や発掘調査などの体験型事業に学生や地元主婦などの参加を募集して新規参加者の定着を促していきたい。</p> <p>・公開・普及活動にQRコードの導入や情報の視覚化など、新たな方法の開発に積極的に取り組み、</p> <p>・地域の人に面白いと目を向けてもらえるような機会をできるだけ多く設ける。</p> <p>・時間をかけて掘りおこした地域史が再び埋もれてしまうことがないように、広範な普及活動に取り組む。</p>

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No. 8 「勝五郎生まれ変わり物語」の調査と発信事業
<p>事業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 18 年度より、地元で伝わる生まれ変わり伝承の調査・研究・普及事業を、市民参加の調査団を結成し行なっている（平成 30 年度総活動数 19 回・総参加者 774 人、内調査団 269 人）。 ・調査・研究事業—11 月に甲府市において勝五郎を取り調べた旗本多門伝八郎についての調査を実施した。 ・普及事業—「勝五郎生まれ変わり物語ゆかりの地」記念碑の序幕、夏休み子ども講座、第 10 回藤蔵・勝五郎生まれ変わり記念日イベントの開催（10 月 14 日）・勝五郎没後 150 年記念公開講演会の開催（3 月 10 日）など ・10 月より「勝五郎生まれ変わり物語」のホームページ・ブログに加えて、twitter による情報発信を開始した。 	
<p>事業の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5 月に高幡不動尊境内に記念碑を建立、案内板・配布チラシも用意したことで、藤蔵墓地とともに普及活動が一層充実した。記念碑を見ての問い合わせが多くあった。 ・7 月に第 11 回夏休み子ども講座を開催し、好評だった。（参加 42 人）市内の小学校を 1 年で 2 校ずつ回って、マイクロバスでの送迎を実施してきたが、30 年度で一巡した。 ・記念日イベントでは、初めて調査団のメンバーである今井秀和氏に講師を依頼し、大変わかりやすい内容で好評だった。（「勝五郎の転生・寅吉の異世界—『再生記聞』と『仙境異聞』、参加 240 人） ・甲府市の調査では、教案寺で多門伝八郎の墓所を発見、勝五郎の取り調べを行った多門の人物像に迫る手がかりを得た。 ・12 月に有志で勝五郎 150 回忌法要を実施、菩提寺の永林寺（八王子市下柚木）住職との交流の場を持った。 ・3 月に勝五郎没後 150 年記念公開講演会を多摩平のイオンホールで実施した。講師に、岩波文庫で『勝五郎再生記聞』の校訂を行った大阪大学名誉教授子安宣邦氏を依頼、調査団の活動の意義にも触れた、示唆に富んだ講演をいただき、好評だった。（「平田篤胤と死者と生者の世界」参加 203 人）また、七生地区を離れた場所でのイベントだったが、日野・豊田在住の参加者が多く、普及活動としての成果が見られた。 ・地方各地の個人・宗教団体等からの問い合わせが多くあり、新聞・雑誌等の取材も相次いだ。ホームページや報告書・ブックレット等の普及活動の広がりを感じさせられた。 ・『歩こう・調べよう・ふるさと七生』に「勝五郎生まれ変わり物語」の項目が設けられ、学習教材としての活用が期待される。 ・多摩モノレール程久保駅の駅名表示板「ほどくぼ小僧勝五郎生まれ変わり物語」ゆかりの地の表示。八王子市東中野勝五郎生家の跡地の緑地に「勝五郎生家跡地」勝五郎ゆかりの場所の案内板とあった、勝五郎生まれ変わり物語を普及する案内表示作成に協力した。 	
<p>協議会の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・没後 150 年記念の子安先生の講演会は興味深く、講師としてよく招くことができた。これまでの講演録があれば見たい。講演録を印刷してはどうか。 ・子安宣邦先生の講演会は多数の参加者があり、大変好評だった。いちどの講演会で終わりにするには惜しいので、子安先生のご承諾を得て、講演内容を記録化・活字化することはできないだろうか。 ・八王子の案内板では、勝五郎ゆかりの地と歩いた道など、地域の見どころを伝える案内板ができてよかった。案内板を立ててから、高幡不動の墓地を訪れる人が増えた。今後同様な取り組みをゆかりの地で行いたい。 ・素晴らしい報告書やブックレットができたので、これらを活用した講座を定期的実施したい。 ・八王子市と日野市、市をまたいだイベントや交流事業などもできると面白い。 	
<p>課題と改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査団メンバーの高齢化に伴い、活動可能な人材の減少が深刻な問題となっている。しかし、調査団の存在は、「生まれ変わり」という特殊なテーマを扱っているあまり類を見ない集まりであるので、全国各地からの情報を集約する場としても意義があるとの見解が示され、郷土資料館のなかに存続し続けることの意味を確認した。 ・今後は世代交代をどのように行っていくのか、従来の在り方にとらわれない、様々な方策を試していきたいと考えている。 	

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No. 9 七生丘陵の自然と歴史調査事業
事業の概要	<p>・七生地域を中心に、自然と暮らしの結びつきや、地域の歴史などの分野にわたるテーマで調査を行い、展示や見学会などを開催して地域の魅力を伝えていく。七生丘陵調査団の市民メンバーで積極的に活動した。</p>
事業の成果	<p>・市民が自主的に興味をもったテーマを設定し資料館と連携して調査を行ってきた。生涯学習の機会を提供した。また市民目線で、自ら調査したことや発見したことの面白さや魅力を実感をもって伝えることができた。自然班、歴史班とそれぞれのもつ興味で班を分けての活動もあった。調査団員の野外活動・例会など 51 回、延べ 262 人。</p> <ul style="list-style-type: none">・丘陵散策コースを中心に動植物の写真を撮影し記録した・散策コースなど昔の写真などに写る情報について調査した。・高幡図書館 2 階ギャラリーにおいて、パネル展「野菜や果物の花」を開催した。・「日野の市境を歩く～谷地川・東光寺コース」を開催した。午前の講座は今尾恵介氏講師、午後の百草歩きは七生丘陵調査団講師（一般参加者 29 人）。
協議会の意見	<p>・丘陵地域に公園があるが、都立の七生公園は通りから登り坂で入りづらく、南平丘陵公園も遊具もなくなり、整備が行き届いておらずもったいない。市民が安心安全に訪れやすく整備されているとよいのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none">・日野市にある素敵なハイキングコースを PR していきたい。・市民活動団体の高齢化や会員減少は、どこも共通の課題である。・市内で活動している様々な自然保護団体や歴史の団体などが、一緒になって問題解決を図る場がないか。情報交換や活動の連携など、活動の活発化にもつながればと思う。・「市境を歩く」の講座は、大変好評であった。今後「七生丘陵」の自然と歴史を歩いて学ぶ講座を、多摩市から八王子市まで、数年がかりで実施したい。
課題と改善策	<p>・高齢化にともなって調査団の参加者数が減少傾向にあり、役員も世代交代の時期となっている。また、野外活動での安全対策を普及し、屋外活動時間の短縮など無理のない計画が必要となる。</p> <ul style="list-style-type: none">・調査情報の蓄積・保管するための手立てが必要。・調査結果のまとめ、毎年実施しているパネル展示内容を活用し、再展示、再編集など成果の有効活用を図る。・七生丘陵調査団のメンバーがもつ能力を生かし、見学会や勉強会などで広く市民へと伝えていく。・パネル展の内容をプリント製本して図書館に配架するほか、パネルの再展示の機会をつくり、成果の有効活用を図る。

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No. 10 たきびの詩人「巽聖歌」啓発事業
事業の概要	<p>・日野市で後半生を過ごした詩人・児童文学者の巽聖歌について、日野市に寄贈されている資料の調査・研究・保存を図るとともに、巽聖歌とその作品についての普及活動を行うことを目的としている。</p> <p>・企画展などの各種関連事業を行い、毎年なたきび祭前夜祭において「巽聖歌朗読と歌のつどい」を主催し、巽聖歌の作品紹介、聖歌とゆかりの文学者を毎年一人取り上げている。</p> <p>・平成10年に、旭が丘にあった自宅の取り壊しに伴って資料の存在が確認されたことを機に、地元旭が丘で結成された「たきび会―巽聖歌を讃える会」と、たきび祭の実行団体である「旭が丘商工連合会」などと共に、調査・研究・普及事業を展開してきた。</p> <p>・平成11年「たきび詩碑」建立（たきび会）、平成17年「たきびの詩人・巽聖歌生誕百年記念展」、平成18年～たきび祭（たきび祭実行委員会―旭が丘商工連合会・たきび会・地元自治会など）、平成22年より豊田駅発車メロディーを童謡「たきび」とする</p> <p>・巽聖歌の出身地岩手県紫波郡紫波町・新美南吉の出身地愛知県半田市・童謡「たきび」の舞台となった中野区上高田の鈴木家などとの交流を行ってきたが、これらの市民交流の成果として、平成29年1月紫波町との姉妹都市盟約が締結され、さらに交流が盛んになっている。</p>
事業の成果	<p>・平成30年は、巽聖歌が童謡詩人としてのデビューを果たした児童雑誌『赤い鳥』が刊行されて100年という記念の年であり、各地で様々な催しが行われた。郷土資料館においても、企画展『赤い鳥』100年記念「たきびの詩人巽聖歌と『赤い鳥』」（4月21日～7月1日）を開催、巽聖歌と鈴木三重吉・北原白秋との交流について紹介するとともに、北原白秋自筆原稿などの新発見資料を展示した。（観覧者数492人）鳥取市・半田市・紫波町などからの来館者もあった。</p> <p>・国際こども図書館・神奈川県立近代文学館等で開催された『赤い鳥』100年関連事業においても、巽聖歌の作品が紹介され、記念刊行された『赤い鳥辞典』に巽聖歌と日野市郷土資料館の項目が立てられるなど、ここ20年間の普及活動の成果と感じられるものがあった。</p> <p>・岩手県盛岡市の「深沢紅子野の花美術館」において開催された『赤い鳥』記念展（11月～3月）に、巽聖歌資料から原画・絵本など8点を貸出し、岩手の人々に巽聖歌資料を見てもらう機会となった。</p> <p>・12月7・8日に開催された「たきび祭」において、前夜祭では巽聖歌の妻で画家の野村千春を取り上げ、その作品と日野について解説、遺族の協力で作品展も開催した。（前夜祭70人・絵画展80人・たきび祭585人）</p> <p>・教育センター内に、「巽聖歌資料室」開設の準備を行なった。（令和元年5月開設）</p> <p>・『歩こう・調べよう・ふるさと七生』に巽聖歌の項目が設けられ、地元の旭が丘小学校・日野第六小学校にとどまらず、市内の多くの学校において、巽聖歌について学んでもらえる環境が整えられてきたことを感じた。</p> <p>・昨年度にブックレットを刊行したことで、様々な反響があり、問い合わせ等も多くなった。</p>
協議会の意見	<p>・巽聖歌の部屋ができたことはありがたいことだ。</p> <p>・岩手でも地元の新聞で紹介され、巽聖歌が日野に住んでいたということが知られるようになってきた。</p> <p>・着実に実績を積み重ねている。</p> <p>・巽聖歌資料室の開設と運営は、限られた条件のなかで厳しいと思われるが、巽聖歌の関連資料を将来にわたって収集保存・整理・研究するための拠点になってほしい。</p> <p>・「巽聖歌資料室」の開設は、学校・市民への啓発、郷土資料館の今後の在り方に大きな意味をもつ。今後「新美南吉」「伊藤整」「田中冬二」「紫波町」の資料も充実させ、市民に公開したい。</p>
課題と改善策	<p>・紫波町との交流や日野市における普及活動など、様々な成果が見られている。新しくなった旭が丘地区センターの存在も、普及活動の後押しとなっているが、郷土資料館と場所が離れているので、どのように連携を図っていくかが課題である。</p> <p>・巽聖歌資料室に、資料をまとめて保管できることになったが、整理・目録化・公開が進んでおらず、なるべく早期公開にむけた整理が必要である。</p>

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No. 11 資料館講座・体験学習事業
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・新選組のふるさと歴史館と共催し、「土方歳三資料館見学と石田散薬製造体験」を実施。 ・見学会「日野煉瓦造の山下堀アーチコルベルトに潜る」は、悪天候のため平成 29 年度 2 回中止となったが、申込者の熱い要望にこたえ、「これで最後」と銘打って開催した。 ・歴史講座「古文書から学ぶ日野市域の八王子千人同心」では、『郷土資料館史料集 第二集日野市域の八王子千人同心関係史料集』を刊行したのを機に、史料集に収めた古文書を教材にした全 3 回の連続講座を開催した。例年、初心者向けの古文書講座を開催しているが、テーマと教材がやや専門的であったことから、変則的に史料集刊行に合わせた「歴史講座」として開催した。 ・正月行事の一つであるどんど焼きを伝承していく。 ・「正月飾りを作ろう」は、市内の農家から提供された稲わらを使い、正月飾りを作った。 ・「化石でたどる大昔の日野」は、多摩川河川敷で、地層や化石の観察会を行い、化石の時代の日野の環境変化についてふりかえった。
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・石田散薬製造の体験では、夏休み自由研究もかねて親子連れが多くなった。35 人参加。 ・J R 日野駅直下の山下堀の見学会では、日野煉瓦構造物を実物に触れることができ、参加者が感動する姿をみることができた。ふだんは入れない場所で、緑と清流課の安全確保の下、当館・歴史館・文化財係で協力し実施し、42 人参加。 ・「古文書から学ぶ日野市域の八王子千人同心」は、延べ 78 人の参加者があった。資料館で把握していなかった千人同心の子孫の参加もあった。 ・「正月飾りを作ろう」の参加者は年々増加し、家族単位での参加が増えている（30 人参加）。 ・どんど焼きは、荒天にも関わらず、多くの人によって火を囲むことが出来た（609 人参加）。 ・多摩川の観察会では、アケボノゾウの足跡化石や樹木の化石が見られ、貝化石の採集を行った（16 人参加）。
協議会の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・マンホールに入り山下堀の煉瓦を見学する事業を実施する日野市はすごい、なかなかできない貴重な体験である。機会を増やしてはどうか。 ・どんど焼きの開催はよい企画で、それぞれの地域でもどのようなやり方ならやっていけるのか、参考になるのではないかと。 ・郷土資料館主催のイベントや展示会は、実施のための労力もかかり回数を増やすことは難しいかもしれないので、他の団体が実施する活動に協力や共催する形(情報提供や資料の貸し出し、ちょっとした解説、場の提供等)での活動をより増やせないか。 ・様々な団体が資料館を活用して活動しているという状態にしていければ、資料館の活性化にもなり、共催などとして名前を載せてもらうことだけでも資料館の PR になるのでは。
課題と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・日野煉瓦造の山下堀アーチコルベルトのように、日野市の宝である文化財を通して、地域の歴史や文化、特性等について語り、地域の文化資源としていきたい。 ・歴史講座「古文書から学ぶ日野市域の八王子千人同心」では、千人同心そのものに興味があった参加者からは喜ばれたが、一方で初心者向けの開催も望む声があった。初心者向けと、より専門的な内容に踏み込んだ講座と、両方のニーズに合わせた講座の開催が出来るように検討する。 ・どんど焼きでは、時間構成の間延びは、昨年度の反省を踏まえて改善した。小屋への飾り付けのルールが徹底が困難で、小屋回りの人数の増加などで改善を図りたい。 ・「正月飾りを作ろう」は、講師との打ち合わせに不備があったため、夏に打ち合わせを行い、講師との情報共有を図る。 ・「化石でたどる大昔の日野」は、家族連れの申込が主であった。低学年の参加者が多く十分な安全配慮が必要となる。観察対象が見られるかどうか、年によって差があるが、講師が説明ポイントを工夫している。

< 参考資料 >

I 平成 30 年度 日野市郷土資料館の活動状況

1 郷土資料館協議会

日野市郷土資料館協議会は、博物館法に基づき、資料館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関として設置されている。また、日野市郷土資料館条例に、協議会委員は教育委員会が任命し、委員の定数は 10 名以内となっている。なお、委員の任期は 2 年となっている。

(1) 協議会委員名簿

第 7 期委員

氏 名	主な活動分野
◎小杉 博司	社会教育の関係者（郷土教育研究）
○平 自由	社会教育の関係者（考古学・博物館学）
嶋山 豊	社会教育の関係者（民俗学・博物館学）
保坂 一房	学識経験者（多摩の地域史研究）
佐藤 福子	学識経験者（歴史・古文書研究）
片山 敦	学識経験者（生物・環境教育）
猿田 恵一	学校教育の関係者（旭が丘小学校校長）
宮原 延郎（H30.3.31 まで）	学校教育の関係者（日野第三中学校校長）
高橋 清吾（H31.4.1 から）	学校教育の関係者（日野第一中学校校長）
中村 高志	公募市民
西山 千絵	公募市民

◎委員長 ○副委員長 任期 平成 30 年 3 月 4 日～令和 2 年 3 月 3 日

(2) 開催状況

開催日	会 場	協 議 内 容
7.18	郷土資料館	1 はじめに ①協議会委員の紹介について ②職員紹介 2 報告事項 平成 30 年度事業の進捗状況と今後の予定について 3 協議事項 ①平成 29 年度事業評価について ②平成 31 年度の事業計画について（特別展示等）

開催日	会場	協議内容
11.20	郷土資料館	1 報告事項 ①平成 29 年度事業評価について ②平成 30 年度事業の進捗状況と今後の予定について 2 協議事項 平成 31 年度の事業計画について（特別展示等） 3 見学 特別展「日野の自然 ～鳥とともに～」
3.1	郷土資料館	1 報告事項 平成 30 年度事業の進捗状況と今後の予定について 2 協議事項 平成 31 年度の事業計画について 3 企画展示案内 ひの宝モノ語り展～くらしの道具に光をあてる～

2 古文書等歴史資料整理編集委員会

日野市古文書等歴史資料整理編集委員会は、市民の教養、学術及び文化の向上を図ることを目的に、古文書等歴史資料を調査するため設置されている。

委員会の委員は、古文書等歴史資料に対して優れた見識を有する者の内から教育委員会が選任し、定数は 6 名以内、任期は 2 年となっている。

(1) 委員名簿

第 10 期・第 11 期委員

氏名	専門分野
多田 仁一	近世史
馬場 憲一	近世史
安藤 陽子	近代史
清水 守男	近現代史
鈴木 淳世	近世史
保坂 一房	近現代史

第 10 期任期 平成 29 年 2 月 1 日～平成 31 年 1 月 31 日

第 11 期任期 平成 31 年 2 月 1 日～令和 3 年 1 月 31 日

(2) 開催状況

開催日	会場	協議内容
7.3	郷土資料館	1 平成 30 年度の資料調査事業について 2 平成 30 年度進行中の資料調査報告 ①豊田 Y 家文書の資料調査について ②下田 O 家文書の資料調査について ③川辺堀之内 A 家の調査について 3 広報「みんなのふるさとこぼれ話」について
10.30	郷土資料館	1 平成 30 年度進行中の資料調査報告 ①豊田 Y 家文書の資料調査について ②下田 O 家文書の資料調査について ③東光寺 T 家文書の資料調査について 2 広報「みんなのふるさとこぼれ話」について 3 パネル展「ガラス乾板からよみがえる 100 年前の豊田の風景」開催について 4 日野市古文書等歴史資料整理編集委員会の第11期委員について
3.5	郷土資料館	1 平成 30 年度進行中の資料調査報告 ①豊田 Y 家文書の資料調査について ②下田 O 家文書の資料調査について ③東光寺 T 家文書の資料調査について ④川辺堀之内 M 家の資料調査について 2 南平 T 家文書の購入について 3 広報「みんなのふるさとこぼれ話」について 4 平成 31 年度の資料調査計画について

3 展示事業

(1) 企画展示

企画展名	展示期間	観覧者数
『赤い鳥』100 年記念「たきびの詩人巽聖歌と『赤い鳥』」	4.21～7.1	473
どつき土器展 ～日野駅西側の低地に広がる遺跡から～	7.7～9.30	651
ひの宝モノ語り展～くらしの道具に光をあてる～	12.15～4.14	637
パネル展「百草の歴史を楽しむ～中世の大寺院真慈悲寺と明治時代の百草園まで～」	4.3～7.10	—
パネル展「平和の尊さを語り継ぐ」	7.11～9.5	—
パネル展「ガラス乾板からよみがえる 100 年前の豊田の風景」	9.8～12.28	—
パネル展『どんど焼き』	1.4～4.19	—
合 計		1,761

(2) 施設見学

① 学校等

月 日	学校名等	対 象	内 容	人 数
4.19	七生特別支援学校	高等部	展示見学	41
4.26	明星大学	—	レポート作成	4
4.30	聖徳大学	—	レポート作成	1
6.6	わかば教室	—	展示見学	23
6.28・29	三沢中学校	2年	職場体験	9
7.4	仲田小学校	3年	社会科学見学、農具体験	69
7.12	わかば教室	—	洗濯板、手動洗濯機体験	20
9.4	わかば教室	—	勾玉作り	27
9.11	東大和市立第四中学校	1年	校外学習	12
9.13・14	日野第四中学校	2年	職場体験	6
9.14	わかば教室	—	展示見学	16
10.12	三沢中学校	2年	地域学習	6
10.19	豊田小学校	3年	農具体験、社会科学見学	152
10.24	日野第八小学校 たちばな学級	—	農具体験、社会科学見学	12
10.26	平山小学校	3年	社会科学見学	86
10.26	多摩市落合中学校	1年	校外学習	8
11.1	日野第一小学校	3年	社会科学見学	79
11.2	日野第四小学校	3年	農具体験、社会科学見学	126
11.2	日野第一中学校	1年	地域学習	24
11.6	七生中学校	1年	地域学習	12
11.6・7	日野第二中学校	2年	職場体験	10
11.8	夢が丘小学校	1年	自然観察	49
11.13	八王子東特別支援学校	中学部	展示見学、体験	12
11.21・22	日野第三中学校	2年	職場体験	6
11.27	東光寺小学校	3年	社会科学見学	88
12.11	平山中学校	1年	地域学習	16
2.22	潤徳小学校	3年	社会科学見学	112
2.26	帝京小学校	3年	社会科学見学	49
2.28	日野第三小学校	3年	農具体験、社会科学見学	71
合 計		29 件		1,146

② 団体

月 日	団体名	内 容	人 数
6.15	国分寺市光寿会	企画展及び民俗・自然収蔵展示室の見学	10
10.17	荒川区よみうりカルチャー	企画展及び民俗・自然収蔵展示室の見学	14
3.10	関東民具研究会	企画展及び民俗・自然収蔵展示室の見学	5
合 計	3 件		29

(3) 特別展「日野の自然 ～鳥とともに～」

① 展示

会 期	会 場	人 数
10.6 ～ 12.9	郷土資料館	516
12.22 ～ 3.3	平山季重ふれあい館	4,550
3.6 ～ 3.15	カワセミハウス	813
合 計	3 回	5,879

※平山季重ふれあい館及びカワセミハウスの人数については、施設入館者数を基に計上した。

② 特別展関連行事

月 日	名 称	人 数
10.28	講演会「日野にすまう鳥たち」 講師：金子凱彦氏、岩井満夫氏	20
11.4	見学会 東京文化財ウィーク企画事業 親子向け体験プログラム『動物園でとりをふやす、まもる』共催 東京動物園協会多摩動物公園	14
2.3	浅川バードウォッチング 講師：金子凱彦氏、小久保雅之氏、村岡明代氏、藤田淳子氏	18
3.10	講演会「東京の野鳥は今 どう変わった・なぜ変わった！」 講師：川内博氏	26
合 計	4 回	78

4 イベントについて

事業名	月 日	会 場	一般 参加数	スタッフ 人数	計
たきび祭(前夜祭ほか)	12.7・8	旭が丘中央公園	735	5	740
どんど焼き	1.12	郷土資料館	602	7	609
合 計	2 件				1,349

5 教育普及事業

(1) 体験学習会

① 自然に触れる体験学習会

月日	内容	講師	会場	人数
3.23	化石でたどる大昔の日野	松川正樹氏 西田尚央氏	多摩川河川敷	16

② 農業体験講座(公民館との共催事業)

月日	内容	会場	人数
12.9・1.20	「親子で大豆から豆腐を作ろう」 2回	公民館高幡台分室	39

③ その他

月日	内容	講師	会場	人数
7.21	土方歳三資料館見学と石田散薬製造体験	郷土資料館	土方歳三資料館 郷土資料館	35
8.23	火起こし勾玉作り	郷土資料館	郷土資料館	66
12.15	お正月飾りを作ろう	わらざうり 保存会	郷土資料館	30
2.17	ひの宝モノ語り展～くらしの道具に 光をあてる～関連講座 みんなで遊ぼう！ たこ揚げ・竹と んぼ・紙飛行機	程久保ボラ ンティア	郷土資料館	23
3.2	見学会「日野煉瓦造の山下堀アーチ コルベルトに潜る」	郷土資料館	日野駅直下山下堀	42
合計	5回			196

※石田散薬を作ろう：新選組のふるさと歴史館との共催事業。

(2) 講座

月日	内容	講師	会場	人数
2.9	歴史講座「古文書から学ぶ日野市域の八 王子千人同心」第1回	馬場憲一氏	郷土資料館	26
2.23	歴史講座「古文書から学ぶ日野市域の八 王子千人同心」第2回	馬場憲一氏	郷土資料館	28
3.2	歴史講座「古文書から学ぶ日野市域の八 王子千人同心」第3回	馬場憲一氏	郷土資料館	24
3.17	講座「くらしの道具に光をあてる 北多摩 ×南多摩」	波田尚大氏	郷土資料館	11
合計	4回			89

※調査事業による講座については、各事業欄に記載。

(3) 出張事業（展示及び講師派遣）

① 学校等へ出張授業

月日	学校名	対 象	内 容	人数
5.11	日野第三小学校	6年	火起こし体験	71
9.11	平山中学校	1年	総合学習（日野の地形・歴史・自然ほか）	75
10.12	平山小学校	6年	土器作り	87
10.12	平山小学校	6年	平山季重について	87
10.20	滝合小学校	4年	防災（日野の災害史）	70
11.1	仲田小学校	6年	戦時中の日野	64
11.9	八王子東特別支援学校	中学部	石田散薬作り	13
11.30	日野第六小学校	5年	脱穀体験	107
1.16	七生緑小学校	3年	昔の道具	65
1.22	豊田小学校	3年	昔の道具	151
1.25	日野第五小学校	3年	昔の道具	121
2.5	夢が丘小学校	3年	昔の道具	47
2.7	仲田小学校	3年	昔の道具	67
2.13	東光寺小学校	3年	昔の道具	83
2.14	南平小学校	3年	昔の道具	84
2.15	平山小学校	3年	昔の道具	83
2.19	日野第八小学校	3年	昔の道具	105
合 計			17 件	1,380

※調査事業関連の出張授業は各事業欄に記載。

② その他

月 日	内 容	会 場	人 数
10.21	平山季重まつりパネル展	平山季重ふれあい館 （平山図書館）	585
10.27	日野ウォークフェスタ（資料館パネル展）	市民陸上競技場	34
11.10・11	桑ハウス公開時の資料展示（産業まつり）	仲田の森蚕糸公園	1,859
12.22	中央公民館連携事業「100年前のガラス乾板写真から見る豊田の歴史」	郷土資料館 公民館高幡台分室	22
1.21～1.26	パネル展「ガラス乾板からよみがえる 100年前の豊田の風景」	豊田小学校	1,416
1.23	三多摩公立博協館協議会研修会事例紹介	くにたち郷土文化館	28
2.17	東京都遺跡調査・研究発表会 公開講演	七生公会堂	389
2.23	七生土曜の広場 現地見学会	七ツ塚遺跡周辺	7

月日	内容	会場	人数
3.12～3.24	パネル展「ガラス乾板からよみがえる 100 年前の豊田の風景」	中央図書館	340
3.16	ギャラリートーク「ガラス乾板からよみがえる 100 年前の豊田の風景」	中央図書館	60
合計	10 件		4,740

※調査事業関連の出張授業は各事業欄に記載。

(4) レファレンス事業

項目	件数
電話・Eメール・手紙などで寄せられた質問に対する調査回答	97

6 所蔵資料活用事業

(1) 資料のデータ化事業

項目	内容
マイクロフィルムのデジタルデータ化及び目録作成作業	35mmマイクロフィルム 28 巻 16mmマイクロフィルム 5 巻

(2) 資料の貸出事業

貸出先	資料	目的
清瀬市郷土博物館	富士山起絵図	企画展「清瀬の富士講」
桜美林大学 2 件	千歯扱きほか民俗資料	博物館実習 (資料収集・整理実習)
小学校、学校教育、児童館ほか 6 件	地層標本、貝化石、千歯 こきなど脱穀農具、写真、 糸車ほか	理科・総合学習授業、国語 教材、 冊子掲載、わらうち
日鉱住宅地夏まつり実行委員会	丘陵地の宅地造成、多摩 テック、平山城址公園駅 ほか写真パネル	夏まつりで展示
生涯学習課、地域協働課 2 件	養蚕関係資料、糸枠	桑ハウス公開、産業まつり 糸とり体験
高齢者施設 2 件	昔の民具（生活用具）、写 真パネル	施設内展示
件数		14

(3) 資料の撮影・閲覧 概要

資料内容	目的
実物資料の閲覧（武蔵名勝図会稿本、クジラ化石、背負梯子ほか）	調査研究
写真の提供（武蔵名勝図会、高幡不動胎内文書、絵巻「三十日之月」、市域の古写真、古文書資料、異聖歌肖像）	地域イベント・博物館・記念誌・研究書・新聞・テレビ番組放映、調査研究、教科書ほか
件数	27

7 資料収集保存・調査事業

(1) 資料収集保存事業

項目	内容	件数等
資料寄贈	多摩テックのりもの券、民俗資料（木杯、コヤシマンガ、獣醫行李第三号ほか）、鳥剥製、古写真、測量事務所関係資料ほか	14 件
資料購入	上州座繰り機と木杵	1 点
収集資料の整備ほか	民具の補修、農具体験及び脱穀体験の補助及び民具整理補助（45 回）	125 人
資料修復	「平山村田畑反別其外取調野帳」（452～1054 番）その 2	1 点

(2) 調査事業

① 真慈悲寺調査事業

区分	事業名	内容	回数	人数
普及活動	現地イベント	特別講演「真慈悲寺を支えた人々の遺跡ー落川・一宮遺跡ー」 講師： 福田健司氏	1	59
		「百草・倉沢地区歴史野外パネル展～真慈悲寺・八幡神社・百草観音堂・百草園を中心に～」		163
		「こども神輿」での歴史解説		1
		現地ガイド「仁王塚発掘調査地点」・イベント準備		52

区分	事業名	内容	回数	人数
普及活動	パネル展示 ほか	パネル展 「中世の大寺院真慈悲寺と百草園を開いた青木角蔵」 会場：京王百草園 (4.28～5.6)	9	529
		パネル展「一中世の大寺院真慈悲寺と慈岳山松連寺第8代住職魯庵如道一」 会場：京王百草園 (2.27～3.10)	13	543
		真慈悲寺調査センター訪問者への解説	4	25
		調布市歴史講座・多摩の歴史散策会でのガイド	2	25
	DVD製作	「百草に慈岳山松連寺を開基した小田原藩大久保家夫人寿昌院」訂正版編集	2	6
調査 研究	調査	新堂が谷戸入口・百草周辺実踏	2	14
		百草園内石碑調査・百草観音堂おこもり祭	2	11
	研究	研究会	26	226
環境整備	その他	真慈悲寺調査研究センター整備・慈岳山松連寺墓地整備	7	59
自主活動	真慈悲寺 ボランティア 自主活動	真慈悲寺調査ボランティアの自主活動(歴史散策)	8	77
刊行物の 発行等	印刷	「百草周辺の歴史散策ガイド」増刷 2,000部		
合計			76	1,790

② 勝五郎生まれ変わり物語調査事業

項目	内容	人数
例会	毎月第二水曜日午後 (12回)	167
総会・記念碑除幕式	5.20 高幡不動尊	56
公開講演会	3.10 講座『『勝五郎再生記聞』にみる平田篤胤の死生観について』講師：子安宣邦氏 会場：イオンホール(イオンモール多摩平の森店内)	203
展示・講座	5.30 わかば教室出張授業	20
	6.18 講座「勝五郎生まれ変わりの記～八王子と日野を結ぶ物語～」講師：北村澄江 会場：八王子生涯学習センター	16
	7.22 夏休み子ども講座	42

項目	内容	人数
記念行事	10.14 第10回藤蔵・勝五郎生まれ変わり記念日講演会 「勝五郎の転生、寅吉の異世界－『再生紀聞』と『仙境異聞』－」 講師：今井秀和氏 会場：高幡不動尊	240
調査活動	甲府市教案寺（多門伝八郎墓所調査）	15
その他の活動	記念碑建立・案内板の設置など、取材（『東京人』『読売新聞デジタル』など）	50
刊行物の発行	生まれ変わり物語の主人公 ほどくぼ小僧「勝五郎」の前世 藤蔵の墓リーフレット 3,000部、記念碑リーフレット 2,500部	
合計		809

③ 七生丘陵調査事業

内容	回数	人数
定例会（11回）・総会（1回）	12	99
七生丘陵の屋外観察記録や資料整理活動	39	163
パネル展「野菜や果物の花」（3.19～4.9） 会場：高幡図書館2階ギャラリー	1	950
体験講座「日野の市境を歩く～谷地川・東光寺コース」（3.24） 講義講師：今尾恵介氏、散策講師：七生丘陵調査団	1	29
「日野の市境を歩く～谷地川・東光寺コース」 七生丘陵調査団市民講師（3.24）		8
合計	53	1,249

④ 古文書調査事業

ア 日野の古文書を読む会との協働

内容	回数	人数
古文書整理（下田〇家文書）	19	96
古文書の解説（豊田Y家文書ほか）	42	464
編集会議	15	47
合計	76	607

イ その他の調査事業

M家の講関係資料調査・下宿講関係資料調査、K家文書追加調査、O家調査、T家調査

『日野市郷土資料館史料集第二集 日野市域の八王子千人同心関係史料集』刊行(500部)
川辺堀之内M家文書の調査とデジタル撮影、宮共有墓地関係の調査、上田T家の調査、
東京南農協日野支店の石蔵調査、矢崎庚申塔移設に関わる調査、新井H家文書借用、
府中市市史編さん室浅川絵図調査、I家文書調査など

⑤ 異聖歌関連事業

内 容	部数など
『異聖歌』リーフレットの増刷	2,000部（A4判）

⑥ その他

項 目	内 容
文化財緊急調査	川辺堀之内の古文書記録撮影調査、JA 東京みなみ日野経済支店大谷石蔵の調査等
民俗調査	日野市域のサイノカミ・どんど焼き行事調査等

8 東京都博物館協議会・東京都三多摩公立博物館協議会

(1) 東京都博物館協議会

○第1回総会

平成30年(2018年) 6月29日

会場：青海フロンティアビル

○第2回総会及び第2回見学研修会

平成31年(2019年) 2月28日

会場：江東区深川江戸資料館(総会)

研修会テーマ「地域の文化観光拠点 深川江戸資料～草創期からの歩み～」

見学 江東区深川江戸資料館 常設展・企画展

(2) 東京都三多摩公立博物館協議会

○定期総会

平成30年5月31日 会場：東村山ふるさと歴史館

○協議会

平成30年11月9日 会場：府中市郷土の森博物館

○研修会

第1回 平成30年(2018年)9月20日 会場：府中市郷土の森博物館

博物館とワークショップ～2つの博物館の事例紹介～

第2回 平成31年(2019年)1月23日 会場：くにたち郷土文化館

博物館と学校対応～3つの博物館の事例紹介～

II 日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱

平成21年3月31日制定

(目的)

第1条 この要綱は、博物館法（昭和26年法律第285号）第9条の規定する、日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価の実施に関し、必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の対象)

第2条 日野市郷土資料館（以下「資料館」という。）は、毎年1回、資料館の運営状況について評価を行う。

(評価の方法)

第3条 資料館は、資料館協議会の意見を聞きながら、評価を行うものとする。

(教育委員会への報告書の提出)

第4条 資料館は、評価に関する報告書を毎年度作成し、教育委員会に提出する。

(評価結果の公表)

第5条 資料館は、評価の結果を市民に公表する。

(評価結果の活用)

第6条 資料館は、評価の結果に基づき、その運営の改善に努めるものとする。

(庶務)

第7条 評価に関する庶務は、資料館資料館係において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、この要綱の施行に関し必要な事項は、資料館長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する

Ⅲ 第7期日野市郷土資料館協議会委員名簿

番号	氏名	備考	期
1	小杉博司 (委員長)	社会教育の関係者 (郷土教育研究)	3
2	平 自由 (副委員長)	社会教育の関係者 (博物館学・考古学)	2
3	畠山 豊	社会教育の関係者 (博物館学・民俗学)	2
4	保坂一房	学識経験者 (多摩の地域史研究)	2
5	佐藤福子	学識経験者 (歴史・古文書研究)	1
6	片山 敦	学識経験者 (生物・環境教育)	1
7	猿田恵一	学校教育の関係者 (旭が丘小学校校長) (任期 平成30年4月1日から)	1
8	宮原延郎	学校教育の関係者 (日野第三中学校校長) (任期 平成30年4月1日から)	1
	高橋清吾	学校教育の関係者 (日野第一中学校校長) (任期 平成31年4月1日から)	1
9	中村高志	公募市民	1
10	西山千絵	公募市民	1

任期 平成30年3月4日～平成32年3月3日

令和元年日野市郷土資料館の
運営の状況に関する評価書
(平成 30 年度事業)

令和元年 9 月

日 野 市 郷 土 資 料 館

〒191-0042

東京都日野市程久保 5 5 0 番地

電話 0 4 2 - 5 9 2 - 0 9 8 1

FAX 0 4 2 - 5 9 4 - 1 9 1 5